V.G 槻輪（きりん）だより

会報第42号
発行日　平成20年3月31日
発行・編集　V・G 槻輪
代表者　大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin

津之江　わがまち紹介
淀川から三島の表玄関

芥川中流の堤防沿いに、白壁の土蔵が点在する古い家並みがある、津之江地区。周辺には古代の倉庫跡が密集した遺跡もあり、古くから水運で栄えていた三島の表玄関であった。

高槻市消防本部 中消防署

中消防署は高槻市消防本部に併設され、主に市域のJR京都線以南を管轄しています。

本部では、庶務課、予防課、警備課、救急救助課、指令調査課と中消防署・北消防署を管理している。

職員定数：324人
人口359千人

消防本部の通信指令室では、非常の連絡が入ると、二名の方が同時に受信しています。一名の方は、送信者との確認対話を行い、一名は通報内容を聞きながら隊員に指示をしています。

今回の見学時、VG槻輪の会員が訓練として携帯電話で病人発生の通報を行い、二人の職員の行動を目の前で見せて頂き非常に参考になると同時に感激いたしました。

高槻市消防本部は、大阪府三島救命救急センターに救急ステーションがあり、出動指令が届くと、救急医と救急救命士が同乗して、所轄の救急隊と同時に出動できる態勢をとっている。いわゆる「ドクターカー」で、人工呼吸器、除細動器、人口心肺蘇生器なども搭載している。

ドクターカーの導入により、心肺停止した患者さんが社会復帰した例が出てくるなど効果は顕著に表れているとのことです。

隊員は、救急隊、レスキュー隊、消防隊に別れていて、制服も違います。

特殊災害支援車や救助工作車の備品も見せて頂き、これらの車両の整備や備品の整備を何時もされているのを見せて頂き高槻市の消防隊の強さを知りました。

芥川歩道橋

自動車に煩わされることもなく橋の中央から芥川沿いの北方あるいは南方にかけた高槻の山々の景色が一望できる。

芥川は、高槻市を南北に流れる一級河川である。上流には摂津峡で知られる自然のV字渓谷があり市街地にも近く、自然環境を残す貴重な場所として親しまれている。

芥川には多くの落差工（河床での洗掘の防止）があるために、魚等が上流に行けません。

芥川に「多くの生き物が次の命を育むための環境をつくろう」として生き物が自由に行き来出来るように「魚みちづくり」や澪筋（みおすじ：平時に流水が流れている道筋）等を作るべく工事が進められています。

筑紫津神社（つくしつ）

芥川を渡り、土手を下りて道を西へ突き当たり、左に曲がると公園と並んで筑紫津神社がある。

筑紫（九州）からやってきた表筒男尊（スサノオノミコト）がこの地に泊まり旅の安全を祈願した。

尊を敬った土着住民が「津」を頂き道祖神に築紫津神社と命名して鎮守としたのが神社の始まり。

「筑紫津」の「津」は、船が停泊する所、「渡船場」、「港」のことで、昔はこのあたりに港があったことを示す地名です。

津之江南遺跡

一九七二年の市立津之江小学校建設にさきだつ調査で、その存在が知られるようになった。

これまでに旧石器時代をはじめ、弥生時代から鎌倉時代にかけての住居や墓が多く調査され、長期間に亘る集落遺跡であることが明らかになってきた。

2万年前には、この付近の広野は食料を求めて移動する旧石器時代の人々の良い猟場となっていた。

アジャリの森

「日本書記」には、当時三島を治めていた三嶋県主飯粒（いいば）が天皇に良田四十町を献上、その田を耕すために大河内値味（おおこうちあたいあじ）張という河内の豪族が春・秋それぞれ五百人の農民を遣わすことになったと記されています。

稲荷神社一帯が「アジャリの森」と呼ばれ、津之江西方に「五百住（よすみ）」という地名がのこるのは、おそらくこの伝承によるのでしょう。こうした津之江にまつわる伝承は、この地域が淀川水運に深くかかわり、三島の中心地である北方の嶋上郡衙跡（しまがみぐんがあと）と盛衰をともにしたことを示しています。

清水池

新池とも云われ芥川の伏流水がわき出る。もともと、灌漑用の貯水施設ですが、農業用利水としての役割が低下した現在、町に潤いと安らぎを与える為に地域の人々が力を合わせ水辺の環境づくりをしようとする「オアシス構想」により整備が進められています。

S・O

4月度行事予定

"水路のまち：東五百住・津之江町"

月　　日：平成20年4月10日（木）
集合場所：阪急富田駅改札出口　10：00集合
順　　路：阪急富田駅→春日神社（五百神社）→常見寺→明然寺→善照寺→天童橋→津之江水路→城西橋→新川桜堤で花見→城西橋バス停→阪急高槻駅

5月度行事予定

“ 歴史の宝庫・交通の要所のまち：島本町 ”

月　　日：平成20年5月15日（木）
集合場所：JR島本駅出口　13：00
順　　路：JR島本駅→島本町立歴史文化資料館→桜井駅跡→伏偶舎（郷土玩具資料館）→阪急水無瀬駅（天候により順路を変更）
島本町立歴史文化資料館では係員に説明して頂く予定です。